

今月の御教え

天地のことをあれやこれやと言う人があるが、人間では天地のことはわからない。天地のことが人間で分かれば、潮の満ち干もとめられよう。

……「天地は語る」第十三条……

解説

明治維新の後、日本においては先進的な欧米の科学技術を始め法律、経済などの知識を意欲的に導入した結果、我が国の文明は大いに進展しました。しかし、知識が増え宇宙の仕組みなどを知ると、天地のことがまるで分っている如く思い込む人々が増え、それまでの天地自然に対する畏敬の念が失われて来ました。それを憂いた教祖様が「大天地の大いなる御働きは、到底人間の理性や能力では計り知れぬものである」ことを御知らせ下さったのがこの御理解であります。

即ち、自然の働きの仕組みは分かっても、それを人間の力で自由にすることは叶わぬことをお示し下さっています。この現代においてさえ、地震、台風の猛威に対して人間は全く無力ではありませんか。教祖様は、私達に「人間の力の限界を知り、天地自然に対する畏敬の念を失わず、天地の親神様の思いを頂いて、天地の道理に適った生き方を現わして行くこと」を切に願われているのであります。